

# 薬物療法部のご紹介

# 薬物療法における化学療法

- ・ 薬物療法部は、化学療法(抗がん剤治療)を専門とする**腫瘍内科医**による診療部門です
- ・ 平成18年1月より現在の体制となり、消化管がん(胃、大腸、食道がんなど)を中心に、胚細胞腫瘍、原発不明がん、肉腫(にくしゅ)などの患者さんの化学療法を専門的に行っています

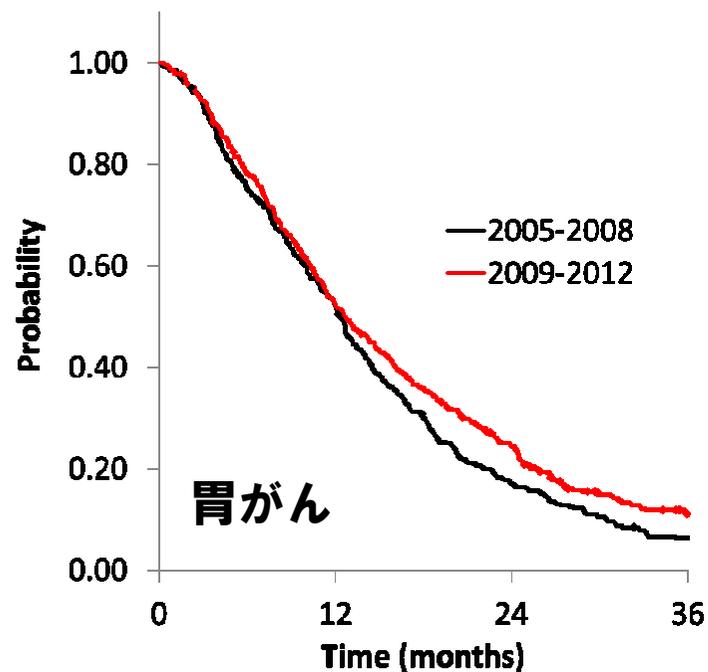
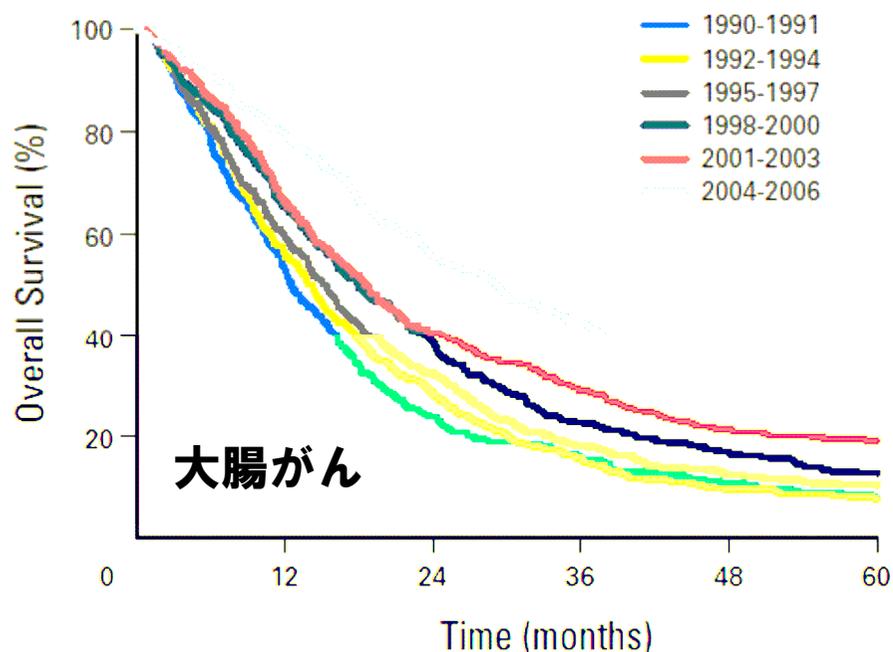
# 化学療法の進歩

- 胃がん・大腸がんは増加するがん患者さんの中でも多くを占めています
- 胃がん・大腸がんの分野における化学療法は、新規抗がん剤の登場により近年著しく進歩しています
- 従来「抗がん剤は効きにくい」といったあまり良いイメージのない消化器がん化学療法ですが、近年その考え方が大幅に変わってきています
- 積極的に適切な治療を行うことでQOL( Quality of Life=生活の質)を維持した生存期間の延長が得られるようになってきました

# 胃がん・大腸がん化学療法の実績

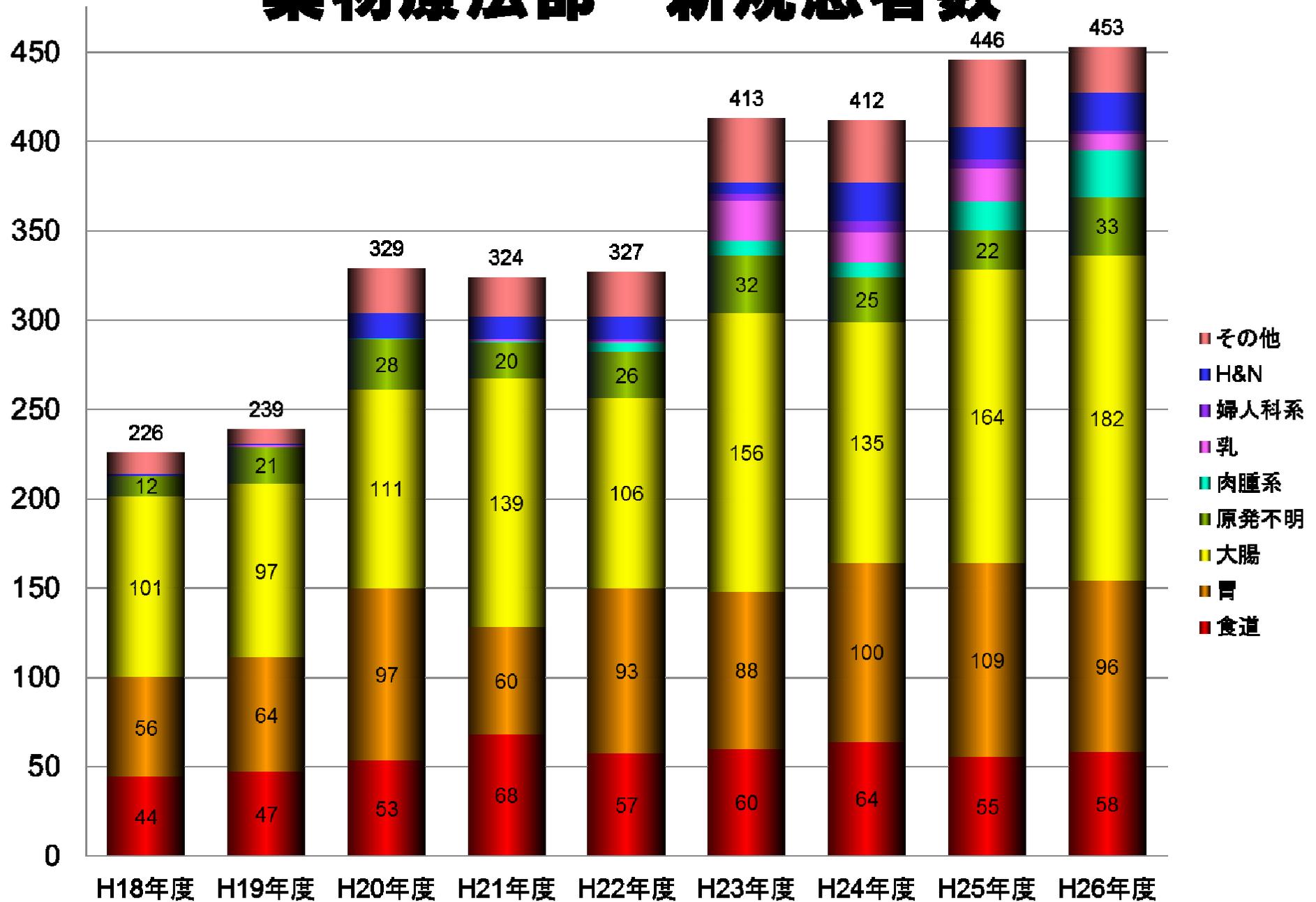
米国の有名ながん専門施設  
MDアンダーソンセンター  
Mayoクリニック

愛知県がんセンター中央病院



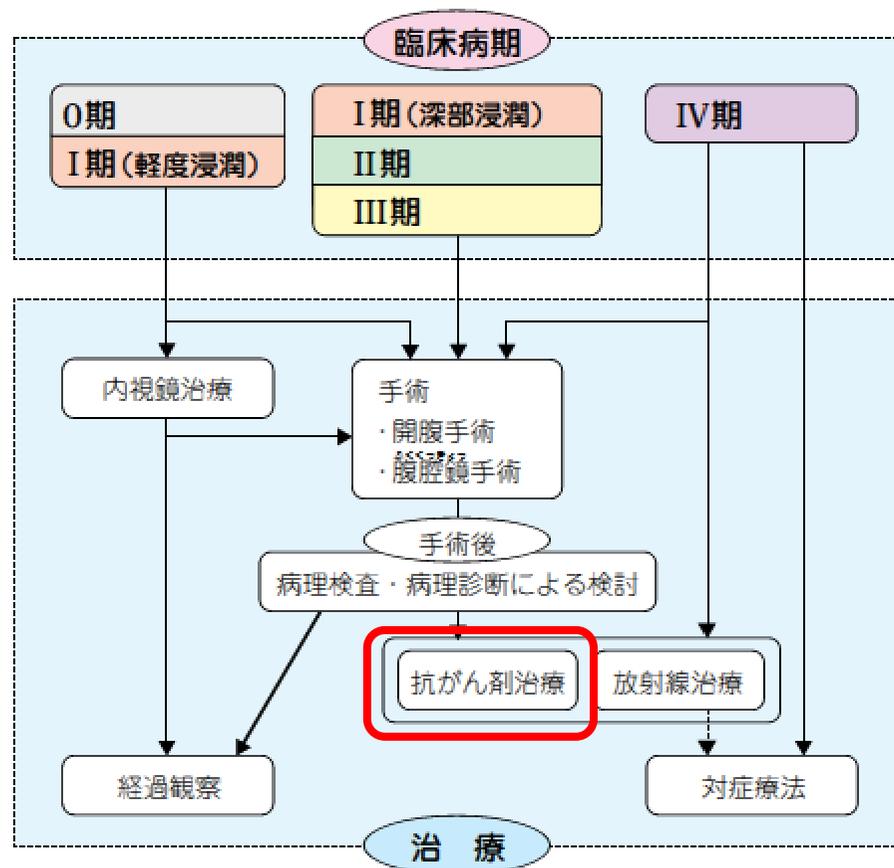
新しい抗がん剤の登場により治療成績は年々向上しています

# 薬物療法部 新規患者数



# 化学療法の2つの目的

図3. 大腸がんの臨床病期と治療



大腸癌研究会編「大腸癌治療ガイドライン医師用 2010年版」(金原出版)より作成

- **補助化学療法**  
手術や放射線の効果を高めます。**再発を予防する目的**に半年～1年間行います
- **緩和的化学療法**  
がんになる前にできるだけ近い**生活を長く続ける目的**に行います

# 標準治療と試験治療

- 確立された標準治療を行うことが基本です
- 標準治療が確立されていないがんや一般的な治療が無効となってしまった方には、臨床試験や**新規抗がん剤を用いた試験**などを適宜行って、新しい治療法の開発を行っています
- 化学療法を実施するにあたって、疾患に対する深い知識と経験のみならず、多くの有望な薬剤についての知識や経験の上でこれらを適切に使用することが必要です

# 臨床試験、治験とは

- ・ 決まったルールの中で**新しい治療の正しい評価**を行うために実施される研究が**臨床試験**です。治験は、日本で使えるように承認に先だって行われます

図1 臨床研究の枠組み



\* 臨床試験の中でも、厚生労働省から薬・医療機器としての承認を得る目的で行われる

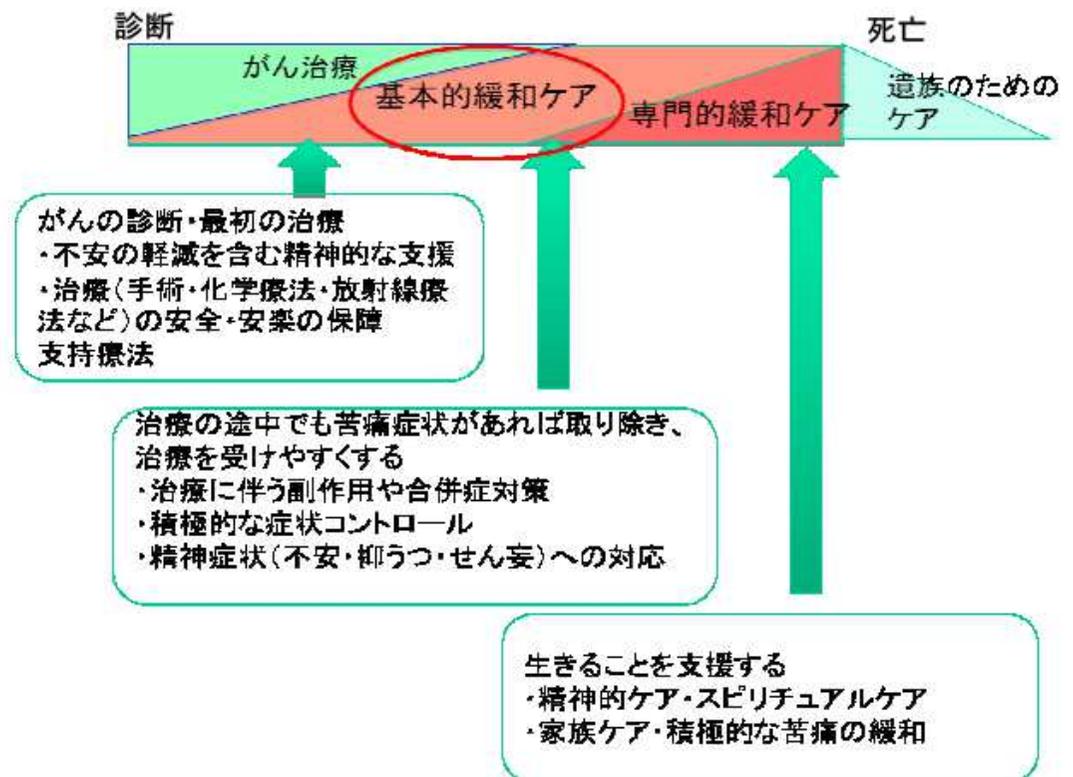
# 各診療科との連携

- ・ **多くの臓器にまたがる腫瘍が治療対象となります**
- ・ **消化器外科、消化器内科、放射線診断・IVR部、放射線治療部、頭頸部外科、乳腺科、泌尿器科、整形外科、婦人科といった各グループと密に連携して診療にあたっています**

# がんと診断されたら緩和ケア

- 全身化学療法のみならず、症状緩和のための治療にも携わることがあり、他科や他職種との連携を密にして全人的ながん治療を提供しています

緩和ケアセンター



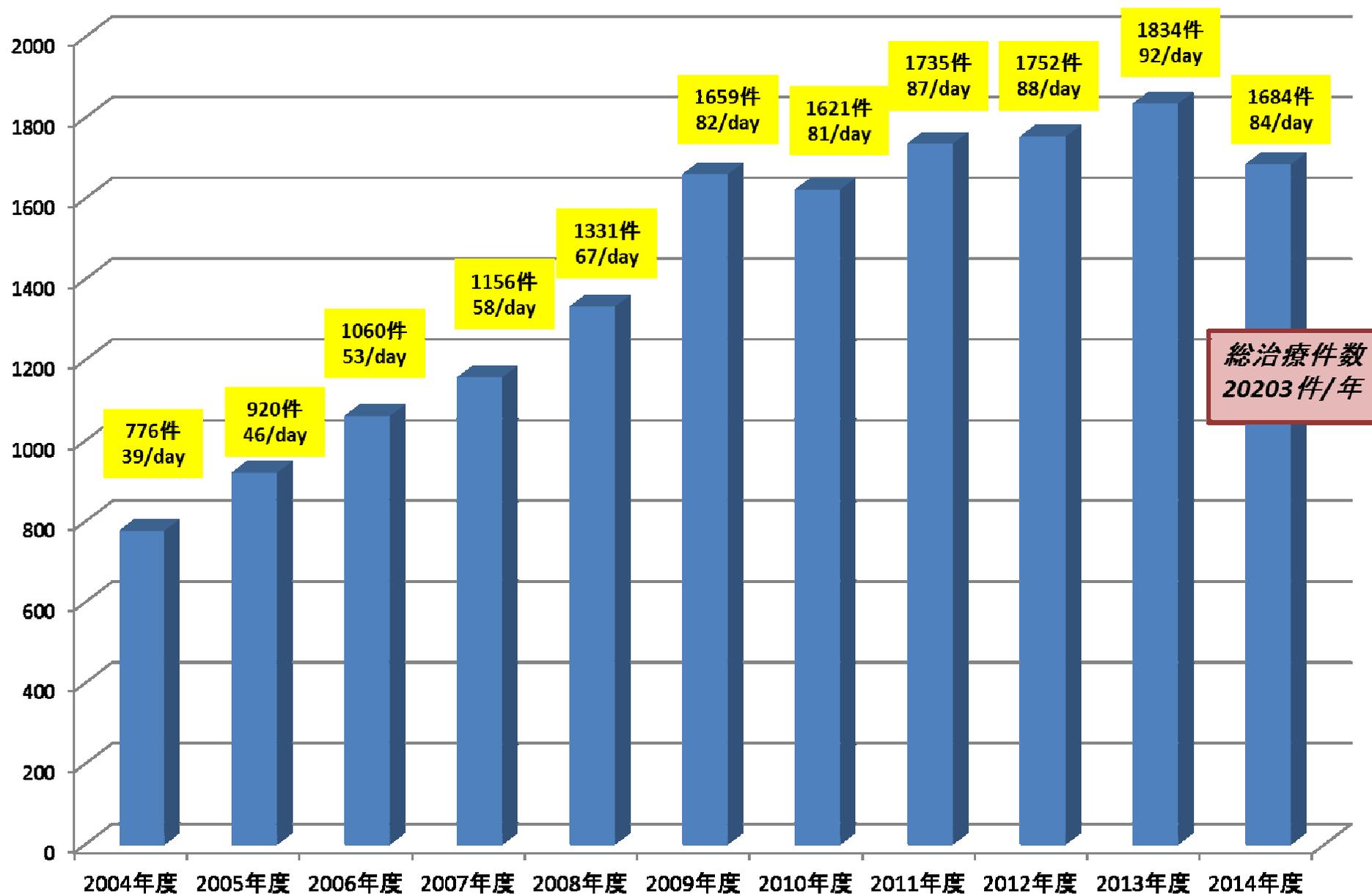
# 外来化学療法センター

- ・ 最近では投与方法や支持療法薬の進歩により、外来で実施可能なものが増えています
- ・ 外来化学療法センターは、チェア22脚、ベッド38床の化学療法専用の治療ブースです
- ・ 患者さんの外来治療数  
1日あたり:80-100人  
1ヶ月あたり:約1800人

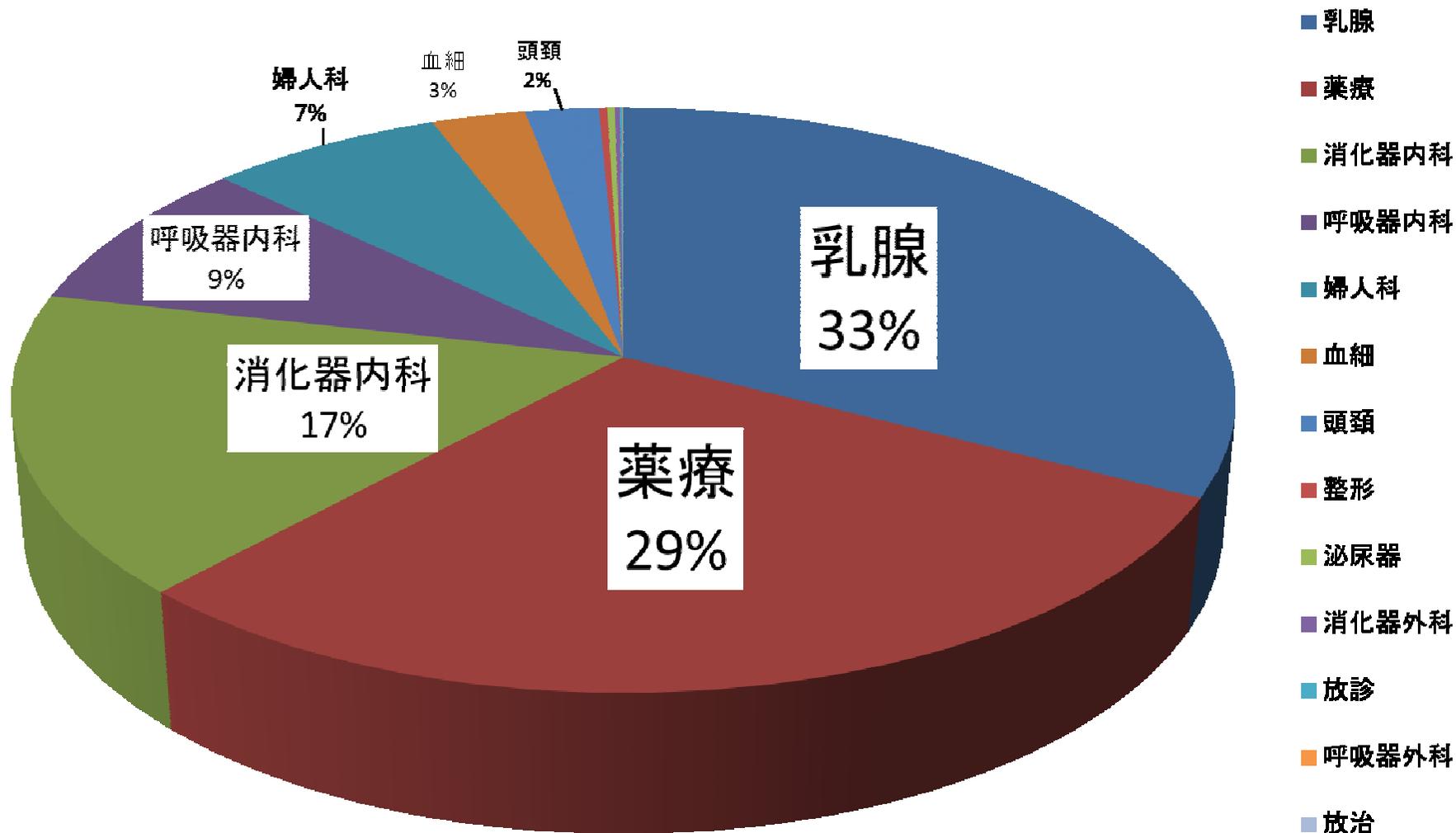


# 外来化学療法センター治療件数の年次推移

月平均 総治療件数



# 2014年度 各科化学療法件数



2014年度月別平均 : 1684件  
一日当たりの化学療法患者数平均 : 84人

# がん化学療法看護認定看護師 による支援も力となっています

- ・ **化学療法に関する対策 スキルアップのリーダーです**



# 副作用対策も進歩しています

- **がん化学療法のプロとして、最大限に効果が発揮できる化学療法の投与方法で、副作用への対応にも十分配慮し、治療を行います**

## 吐き気・嘔吐

※吐き気や嘔吐は、抗がん剤が消化管の粘膜や脳の神経中枢に影響を与えるために起こる症状です。  
吐き気は1日から1週間くらい続きます。

※吐き気止めを使用したり、食事の取り方を工夫して少しでも薬に過こしましょう。

### ～吐き気・嘔吐を和らげるための方法～

#### 1、吐き気止め

- ・主治医の指示通り薬を内服しましょう
- ・気持ちが悪くときは我慢せずに早めに薬を使いましょう
- ・薬があまり効かない時は主治医に相談しましょう

#### 2、生活上の注意

- ・食後はゆっくり休息を取りましょう
- ・吐き気のある時は横向きで休みましょう
- ・吐いた後は冷水でうがいするとスッキリします
- ・夜はゆっくり睡眠をとりましょう



## 口内炎対策

口内炎がでると、どうなる？



☆ こうならないために・・・

**抗がん剤治療が始まる前から、口の中を清潔に保つ事が大切です！**



それでは、どのような方法で行えば、よいのでしょうか？

#### 1、口内炎ができる前に・・・

①歯科医院で検診を受け、口内のクリーニングをしてもらいましょう。  
(ただし、主治医の許可を得てください。)

②うがいをしましょう！

種類：イソジン・イソジンガーグル・ネオステリングリーンなどで行いましょう



## 下痢

抗がん剤による下痢は、お薬が腸管粘膜に刺激を及ぼすために、起こります。



早期にあらわれる下痢	遅れてあらわれる下痢
・注射して24時間以内 ・冷や汗、腰痛、おならなどの症状が先に現れる場合もあります。	・注射して24時間以降 ・多くの場合は1～2週間後 ・あらかじめ下痢止めの薬をお探しする場合があります

いずれのタイプにおいても、多くの場合は下痢止めなどのお薬により症状を和らげることができますので、以下の症状にお気づきの際は、直ちに医師の診察を受けて下さい。また、あらかじめ下痢止めの薬が処方されている場合は、医師の指示どおりに使用して下さい。

#### このような症状に注意！

- ・冷や汗が出る、腰痛、おなら、おながコロコロする、便の回数が増える・量が増える・ゆるくなる

## しびれ



Q. しびれはどんな抗がん剤を使うと起こりやすいの？

A. パクリタキセル（タキソール）・ビンクリスチン（オンコピン）・エトキシド（ベフシド）・オキサリプラチン（エルプラット）などがあります。

Q. 発症の時期は？

A. 早ければ抗がん剤の投与から3～5日、数週間後の場合もあります。

Q. どれくらい持続する？

A. 半年～1年間、回復がより長期になることもあります。

Q. しびれを和らげる方法は？

A. ①温電法（湯たんぽなどで温める）  
②マッサージ、手足の運動  
しびれに関しての予防方法や和らげる方法は、現時点で確立されたものではありません。

# 新しい抗がん剤① スチバーガ

- ・ 大腸がんの患者さんに使用される飲み薬です
- ・ 手足の副作用が強いので外来化学療法センターの看護師さんにサポートしてもらいながら使用します

## 軽度

- ・ 手のひら、足の裏などの加重部位に赤みがあらわれる
- ・ 手足にビリビリ、チクチクといった違和感
- ・ 痛みはなく、日常生活には影響しない



## 中等度

- ・ 皮膚が硬くなり、ひび割れることもある
- ・ 痛みがあらわれ、日常生活に支障が出る



## 重度

- ・ 皮膚がさらに硬くなる
- ・ ひび割れのほか、水ぶくれなどがみられる
- ・ 強い痛みのため、日常生活が困難になる



上記のような症状がないか、**1日1度**は、よく手足を観察しましょう。



## ・ 診察前の問診



# 新しい抗がん剤② ロンサーフ

- ・ 大腸がんの患者さんに使用される飲み薬です
- ・ 副作用は全体に軽度ですが、飲み方が少し複雑ですので外来化学療法センターの薬剤師さんにサポートしてもらいながら使用しています

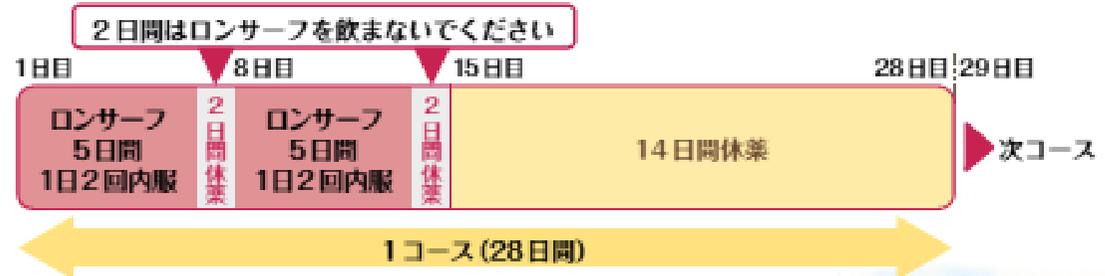
## ロンサーフ配合錠 T15



## ロンサーフ配合錠 T20



## 治療スケジュール

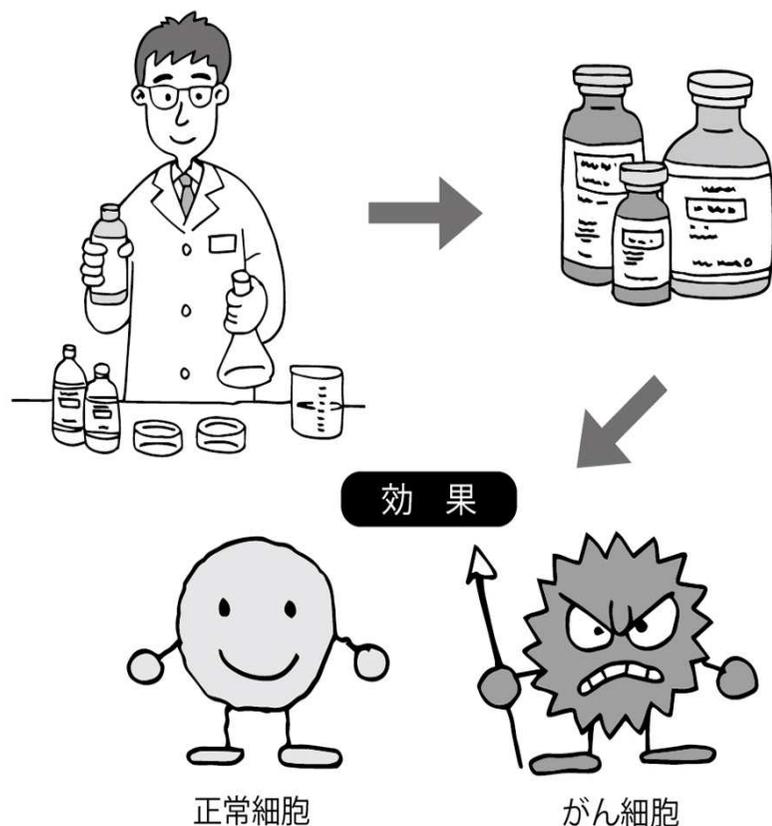


この薬には服用期間と休薬期間があり、これを繰り返します。担当の医師または薬剤師の指示を守ってお飲みください。

＝薬袋裏面書 1ページを参照



# 精密治療(Precision Medicine)



- ・ 抗がん剤投与前に**がんの遺伝子検査**を行い、最も効果が期待される抗がん剤を選択できるようになりました
- ・ 同じがんでも大腸がんでは RAS, BRAF, 胃がんでは HER2 といった遺伝子異常の有無によって患者さん毎に使用する抗がん剤が異なります

# http://ganjoho.jp/public/index.html

がん情報サービス ganjoho.jp 医療関係者向けサイト  検索

データを基に病院を探す  
「施設別がん登録件数検索システム」  
がん相談支援センターで本稼働しました [詳しくはこちら](#)

□ □ □ ■ □ □

<b>それぞれの がんの解説</b> 診断から療養まで	<b>診断・治療</b> 検査や治療、 臨床試験について	<b>生活・療養</b> 食事や治療中のケア、 支援制度など	<b>病院を探す</b> がん診療連携拠点病院 小児がん拠点病院 緩和ケア病棟などを探せます
<b>冊子・資料</b> 冊子や資料、 講演会の記録など	<b>がん登録・統計</b> がん登録の仕組み、 がんの統計情報など	<b>予防・検診</b> がんの原因や 予防について	<b>がん相談支援 センターを探す</b>

おすすめページ

<b>もしも、がんと 言われたら</b>	<b>ご家族、 まわりの方へ</b>	<b>がん情報サービス サポートセンター</b> 0570-02-3410 (ナビダイヤル 平日10時~15時)	<b>療養生活に役立つ 患者必携</b> → 患者さんの手記
<b>がんの 臨床試験を探す</b>	<b>地域のがん情報</b>	<b>音訳・点訳資料</b>	<b>がんと共に働く まず一歩前へ。</b>

お知らせ RSSについて [お知らせ一覧へ](#)

**ピックアップ**

- 診察の際などにご活用ください：冊子「[重要な面談にのぞまれる患者さんにご家族へー聞きたいことをきちんと聞くためにー](#)」
- 「[大規模災害に対する備え がん治療・在宅医療・緩和ケアを受けている患者さんにご家族へー普段からできることと災害時の対応ー](#)」を掲載しました。

**新着情報**

**小児がん情報サービス**

全国がん登録PRキャンペーンサイト  
感謝をつなぐ。  
未来をつなぐ。  
Thank You Baton [サンキューバトン](#)

**がんに関する正しい情報を得ましょう**

# 化学療法の進歩のために

- **新規抗がん剤の導入のみならず、あらたな併用抗がん剤治療が増えていきます**
- **適切で、安定した治療提供のみならず、副作用軽減にも留意した治療提供を続けるよう院内一丸となった取り組みを続けています**
- **薬物療法部をはじめとした医師、化学療法認定看護師、がん専門薬剤師がチームとなって取り組んでいきます**